

第2回石岡地方医療対策カンファレンス結果概要

日 時：令和元年11月29日（金）19:02 開始 19:50 終了

場 所：石岡市役所本庁2階201・202 会議室

出席者：今泉文彦石岡市長，坪井透かすみがうら市長，島田穰一小美玉市長，柏木史彦石岡市医師会長，
緒方剛地域医療に係る対策を検討する専門委員会会長

傍 聴：7名

議事に先立って、地域医療に係る対策を検討する専門委員会 緒方会長から今泉市長へ地域医療計画（案）が提出された。その後、事務局から石岡地域医療計画（案）と今後のスケジュールについて説明を行い、それぞれにおいて意見交換を行った。

主な協議内容は以下のとおり。なお、本カンファレンスは公開で行われた。

（石岡地域医療計画（案）について）

柏木会長：内容に関して2点ほど話したい。第4章具体的な対策の中の短期に、『小児科の充実』と単一言で書かれているが、小児科の課題は小児救急を市内で受け入れるところがないことと、入院受療率が低いことの2点だけ。実際、外来の受療率は石岡市に至っては8割を超えており、全てひっくり返して『小児科の充実』と書くのは、好ましくないのではないか。現在、日常の小児の診療で、市内でご尽力いただいている小児を診ている先生や、病院の整備をしようとしている山王台病院などに誤ったメッセージを伝えてしまうのではないかと思う。小児救急の充実や入院受療率の向上といった、足りないところを補うということだと思うので、『小児科の充実』の部分については具体的に書いた方がよろしいと思う。もう一点、中期の4番目の『介護老人保健施設との連携を強化し、速やかな退院調整等ができる体制の構築』とあり、これを中期に掲げているが、病院の再編統合案では、回復期病床を充実させるという項目もある。回復期病床の病棟を上手に回すためには、介護老人保健施設との連携が不可欠だが、実際に介護老人保健施設はすでに存在しており、連携強化は同時にできるものなので、中期にではなく短期に入れるべきと考えるがいかがか。

緒方会長：専門委員会ではこのように書かせていただいたが、たしかに小児科の医療の中には具体的な説明があり、また、介護老人保健施設についても回復期病棟と併せてご検討いただくことなので、カンファレンスでご検討いただきたい。私どもはたたき台を示したので、カンファレンスで必要があれば修正いただくことも差し支えない。

今泉市長：では、ご指摘のように修正を加えようと思う。

坪井市長：計画（案）の中にもあるが、受け皿を整備しても医師の確保が約束されるという訳ではないので、運営をはじめクリアしなければならないことがあると思う。そうしたことから小児科の充実あるいは産科の新設等によって石岡地域で安心して出産・子育てができるような医療環境の整備が図られることを期待したい。私どもとしても、医療体制の強化として異論はないと思うが、負担などの関係もあると思うので、その辺十分に検証しながら進めていきたい。

島田市長：報告について、ただ今ご説明をいただいたが、本計画の中心となるのは、石岡市医師会病院と石岡第一病院を再編統合して公立化するということ。そして公立化とは石岡市が開設者になるとい

うことで間違いないということですね。間違いないのであればはっきりと明記すべきではないかと思うが、会議前にはっきり言われたので安心している。また、公立化が優先的に実施する対策として位置付けられたが、短期で実施するには、施設の整備計画、さらには、先ほど15分前に集まった中で、市長からも少し話が合ったが、イニシャルコストやランニングコストについて、ここで最後に「公立病院のランニングコストの赤字補てんはしないこと」と書いてあるが、そのランニングコストやスケジュールなどはどのように考えているか再度確認したい。本計画について石岡市が主体的に事業の展開を図るという前提で、かすみがうら市とともに連携協力して、一丸となって、当該地域の医療対策に取り組んでいきたいと考えているが、財政支援については限定的と考えている。小美玉市では、小美玉市医療センターを民間の医療法人財団古宿会に移譲し、新病院の建設を進めているところで、ここ10年間で多額の財政支援を行っていく予定。その辺を含めて考えていかなければいけない。そういう中で、本計画案について、小美玉市が連携協力していける範囲としては、第1回石岡地方医療対策カンファレンスで柏木先生の方からあったように、小美玉市の病院で受け入れられないような救急患者もいる中で、そういうことが競合しない範囲で、具体的には、二次・三次救急や産科・小児科などに限定して財政支援をしていくということでご理解いただきたい。しかし、産科を設けることの一行に『中長期的な視点では、産科を設けることや将来にわたり持続可能な医療体制を確保されることが期待される』と記載されており、ちょっと先の長い話に聞こえる。しかし、締めくくりには、『早期に産科が設置されるように努めること』と書いてある。我々は子どもを産み育てやすいような環境づくりということで少子化対策に全面的に力を入れているが、産み、育てるという観点から見ると、産婦人科の必要性、さらには、小児科の必要性というのは非常に高い。もう少しそういうところに踏み込んで進めていただけると大変ありがたいので、よろしく願いたい。

今泉市長：産婦人科・小児科については、中長期ということになっているが、長期では間に合わない。市民が望んでいるのは、一刻も早い設置ということで、表現を変えて、スピードを加速したいと思うがいかがか。

緒方会長：産科の考え方について説明を申し上げる。委員会の中では、産科をできるだけ早く設置するというのが市民の願いという話もあった。かたや、現実的には、特に産科については、例えば明日から手配するようなことは難しいという声もあった。そういった中で、山王台病院も、公立病院になることを想定してる石岡第一病院も、両方ともできるだけ早く産科は開設したいという考えはお持ちである。ただ一方で、現時点で、短期的にそういう見通しができるかというとなかなか難しい。ただ、できるだけ努力したいということでだったので、公立病院について、中長期的なところで産科を設置するという表記にしたし、その中で課題としてあるとおり、できるだけ早期にする必要があるということでこのような表記にしている。

島田市長：石岡地域の医療対策の基本的な考え方は、少子化対策で産科の必要性。必要性が高く、さらには緊急性が非常に強いということから、近くにそういう施設があることが、それが第一の条件。少子化対策の中で、環境を整え、子どもを産んでもらうためには産科が必要。さらには、産んでくれたら小児科が必要。逆にこれから20年間は高齢化が進む中で、高齢者だって医者にかからなければいけないし、そちらに医者が必要という話もある。しかしながら、難しいという中でも、ここはなんとかでも小児科、産科の強化、必要性は認めてほしい。

柏木会長：概要版の中には短期、中期、長期の区分について具体的な記載はないが、計画書の中では、短

期は1～2年、中期は3～5年、長期は5年～10年との記載があり、産科も中期の3～5年の中に入っている。中長期ではない。10年後ということではないので、私はこの区分で十分だと考える。もちろん短期に入れることが望ましいとは思いますが、どの先生に聞いても1～2年でどうにかなる代物というものでもない。かといって、5年～10年も待てということもできないので、中期で3～5年、病院の整備が終わるころにはめども付くということだと思うので、私はこの記載でいいのではないかと思う。

今泉市長：小児科は短期、産科の新設は3～5年ということではいかがでしょうか。

島田市長：先生に伺いたいが、産科が難しいというのは、何が基本的に難しいのか。今、人口減少対策で、国は色々な手当をしてくれているが、その手当の中に、具体的に産科の先生を育成するとか、産科になった時の特典があるとかそういう制度がなければ、なる先生がいけないという話なのか。それが解決できなければ、いつまでも産科の先生はいけないということなのだろうか。

柏木会長：これは難しい問題。考えてみればわかるが、産科は24時間や体制でやらなければならない。もう一つは女医の問題もある。産科の医師は女医が多いが、例えばお産をやるのに3人いないとお産ができないという話があるが、産科のお医者さんに話を聞くと、結婚して子どもを産むとなると、順番に子供を産むそうで、次々産休に入る。その中で回していくことになる。すると、今まで想定していた産科のお医者さんの倍以上の人数が必要になる。そして激務ということもあって、なり手がいない。お金をあげれば産科のお医者さんが増えるということは、今後もあり得ないと思う。そういう事情がある。

島田市長：3人体制で1つの産科の事業をするということであれば、3人体制でできるような環境を、国をはじめとして作っていかなければならないのではないかと。希望する人は厳しいからやらないというのであれば、女医さんだからとか、24時間拘束されるとか、そういうことが解決できるような体制をきちんと作ってくれなければ、いつになってもなり手がいないのは当たり前だと思う。国が今の少子化対策色々やってくれているが、そこを含めて対策してくれないと、私どもがこうやって議論していったって、早期といっても中長期といってもいつまでたっても実現できないのではないかと。根本的な問題が解決しなければ難しいと思う。

今泉市長：産科は初めから大きなテーマであり、計画の中で重点項目という表記をして取り上げたいのではないかと考えている。また、負担金については、カンファレンスを今後、何回か開催していく中で協議をしていきたい。石岡中心にやっていくことは間違いないが、そういうことで、今後の協議にゆだねるといふことでよろしいか。

島田・坪井：はい。

(今後のスケジュールについて)

事務局：石岡地域の計画案については、本日いただいた意見をもとに修正を加えるとともに、今後、パブリックコメントや議会への説明を行い、そちらの意見も集約したうえで地域医療計画案を修正していきたい。策定に際しては、計画案に策定に至るまでの経過や趣旨について第1章として加えた上で、5章編成で作成していく予定で考えている。

島田市長：自分たちで単独でできないものがあるからこうして連携を強化して相談してやっていくと思っている。それに対して、いい形でまとめられたらと思う。